

2020年10月入職

う め だ あ や  
梅 田 綾



## 看護師として、いい歳の重ね方をしたい

### 患者さまからのひとことで、存在意義を取り戻せた

前職は大学病院で10年以上勤務しており、急性期の患者さまを担当していました。善仁会に転職したのは、慢性期の患者さまに関わることで、看護師として業務の幅を増やしたいと考えたからです。しかし、入職した当初は、自分の存在意義が揺らいだこともありました。治療の方向性を決める医師や、穿刺を上手くこなす技士とともに働く中で、看護師としての役割を見出せなかったのです。正直「どうして透析看護を選んできたのか」とまで考え込んだこともありました。

そんな私に光を与えてくれたのが、以前受け持ちをしていた患者さまからいただいた「あなたがいてくれてよかった」という言葉です。その方は透析治療中に容態が急変したのですが、私はベッド横で膝をつき、ずっと患者さまの手を握り続けていました。患者さまが何か言葉をかけてほしいときや自分の思いを聞いてほしいときに寄り添える存在は、看護師のほかにいません。看護師の本質は、患者さまに一番近いところから精神状態をアセスメントすることなのだ気付かされた瞬間でした。



### 研修を通して、不足していたものが見つかった



私は看護師として「いい歳の重ね方をしたい」という思いがあります。善仁会への入職当初に受けた「思いやり研修」や、今回のエキスパートになるための研修は、その思いを具現化させる上で大きな糧になっていると感じています。前職は主に急性期対応ゆえ、とにかくスピードを重視していました。置かれていた環境を考えるとそれはそれで理に適っていたと思いますが、いま振り返ってみると、周りのスタッフに対する気遣いが不足していたとも思います。

課題があるということは、伸びしろがあるということ。いただいた課題を前向きに捉え、新しいスタイルを身につけることは、看護師の幅や深みを生み出すと考えています。これまで「この方のようにになりたい」と思える先輩や同僚と出会ってきましたが、思いやりエキスパートに選ばれた以上、これからは私自身がほかのスタッフの手本にならなければなりません。思いやり行動を日々の中で体現しながら、いい歳の重ね方をしたいと思っています。

常に思いやりの心をもち、  
患者さまだけでなく周囲の方々  
から、信頼され慕われる  
エキスパートナースを目指します。

梅田 綾